

案内表示等の多言語化調査

(外国人モニターによる改善効果の現地検証) を実施

企画観光部

観光庁では、交通機関及び観光地における案内表示等の多言語化について、一部の施設を除き英語表記のみになっていることから、外国人観光客受入体制の整備の一環から、利便性の高い案内表示とするため、検証を行うとともに多言語情報提供モデルを確立するため、4カ国語化（日英中韓）等の実証実験を実施することとし、当運輸局では、台湾、中国などのアジア圏からの訪日外国人が多い、富山県の立山・黒部を対象地域として調査を実施することとしました。



調査は、公共交通事業者と連携して、地域内にある駅や観光地などの案内板等をルート毎に整備し、外国人の方から表示内容、多言語表示の必要な範囲など検証して頂き、この結果を踏まえ、多言語案内表示等の効率的な整備を促進しようとするものです。

具体的には、富山駅に降り立った外国人観光客が鉄道などを利用し、観光地（立山黒部アルペンルート、宇奈月温泉、黒部峡谷鉄道駅、岩瀬地区、環水公園）に移動する際に必要な情報を確認する案内表示等の現況について、昨年11月に外国人モニター調査を実施し、その結果に基づき、案内表示等の改善を図り、再度モニターによる現地検証をこの度、3月1日～2日に渡って調査を実施したものです。

調査コースは、電鉄富山駅～立山駅、電鉄富山駅～宇奈月温泉駅、富山駅北口～環水公園、富山駅北～岩瀬浜周辺となっています。



この度実施しました案内表示等の改善に伴う外国人モニター調査については、英語、中国語（簡体字、繁体字）、韓国語圏から8名の調査員の方からお願いし、現況調査による改善後の表示について、語訳、分かりやすさ、見やすさ等について意見と頂きました。意見では、デザインの統一性が一部適切ではない。カタカナの語訳がない所がある。乗車・ダイヤ表示板に情報が多すぎて文字が小さい、また、パターン変更が早すぎるもっとゆっくりと。トロッコ電車の語訳に工夫をなどの指摘が寄せられていました。

なお、当日は、調査実施する旨プレス発表したことから、民放テレビ局1社、新聞社3社（電話取材を含む）の取材がありました。

今後、頂いた指摘事項については、改善するとともに本調査を踏まえて、訪日外国人が安心して旅行ができる環境整備を図って行きたいと考えています。

